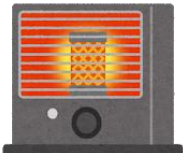


## 地球温暖化を後押ししていませんか？

たとえば

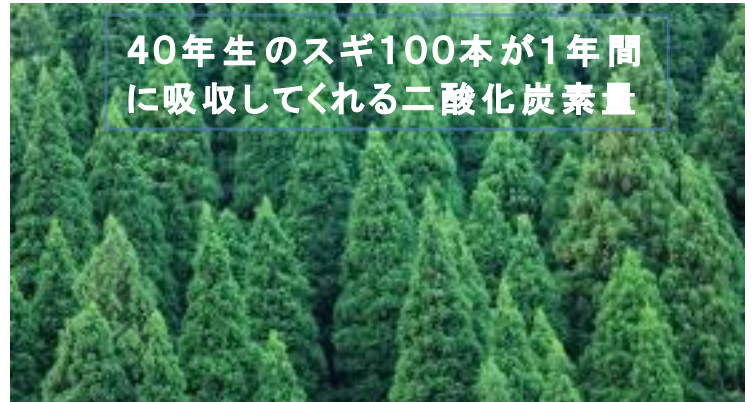
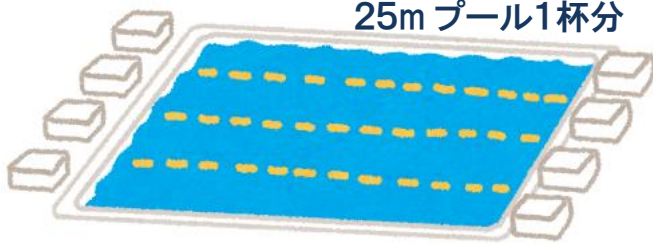
(木造6畳1日8時間使用4か月の平均使用量)

# 石油ストーブかひと冬で出す CO<sub>2</sub> 量は1トンにも！



CO<sub>2</sub> 1トンは約500m<sup>3</sup>  
人間3人が呼吸で1年に出す量

25m プール1杯分



40年生のスギ100本が1年間に吸収してくれる二酸化炭素量



COP25 で演説するスウェーデンの環境活動家グレタさん

## COP25 削減目標の合意ならず

～昨年12月、スペインのマドリード～

温室効果ガス削減の必要性については合意を得ましたが、具体的な削減目標では合意できず、「可能な限り高い野心を反映するよう」との要請に留まり、上積み幅は各国の判断に委ねられ、実効性が問われています。

## 日本2度目の「化石賞」受賞

そんな中、日本は石炭火力発電推進など地球温暖化対策に非協力的な国として、国際的環境 NGO 「気候行動ネットワーク」から2度目となる「化石賞」を授与されてしまいました。



地球温暖化の原因は、石炭・石油などの化石燃料の大量使用や森林の減少・荒廃にあります。すべての企業が、そして私たち一人一人が、今すぐにも化石燃料の使用をできる限り減らし、豊かな森林を回復させなければなりません。

## 地球温暖化防止に向けて世界の動きは鈍く、逆行するとも見える日本～ならば地域から、丹波篠山から～



ペレットストーブ

バイオマス丹波篠山は間伐や里山整備に力を入れ、丹波篠山に豊かな森を取り戻そうとしています。豊かな森は地球温暖化の

原因となる CO<sub>2</sub> をたくさん吸収してくれます。

間伐や里山整備で伐採された木は割り箸やクデジューなどに加工するほか、薪やペレットを作り提供しています。薪やペレットは地上の CO<sub>2</sub> を増加させない再生可能エネルギーです。

# 西紀小学校で間伐体験学習と木工体験学習



オーストラリア大山火事と火傷コアラ

てくれる森を元気にするための間伐の意義などを考えてもらいました。(生徒さんがリーフレットにまとめてくれました⇒)



そしてその上で、実際に学校の近くの森に入って間伐体験。込み合って暗く下草が少ないヒノキ林の状態を観察した後、のこぎりで1本のヒノキを全員が少しずつ切り進めて伐採しました。(切り方を生徒さんがリーフレットにまとめてくれてます⇒)

倒した木は短く丸太切りし、学校に持ち帰りました。

持ち帰った間伐材は、ナチュラルバックヤードの足立さんに木工に使いやすいよう加工していただきました。

そしていよいよ2月14日(金)には足立さんの指導により、その間伐材などを使った「木工体験学習」を実施していただきました。



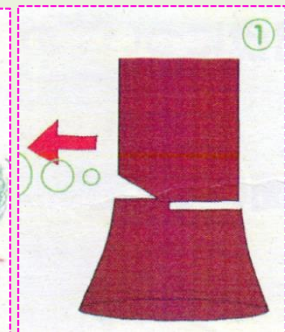
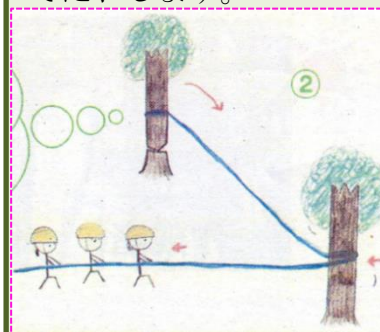
2月4日、もう毎年この時期恒例となった西紀小学校での「間伐体験学習」。今年も5年生の9名の皆さんとまずは教室で、地球温暖化や世界の異常気象と大災害(写真一例)、また森の荒廃について理解した上で、二酸化炭素を吸

## 間伐体験について生徒さんがまとめたリーフレットより

### ～二酸化炭素の事～

一家庭でストーブが一冬に出す二酸化炭素の量は1トンで、百本の木がそれを吸うのには1年かかる。木が酸素を出してくれてそれを人間が吸っている⇒  
～林業をしている人達といっしょに間伐をしました～

- ①まず、のこぎりで幹に切れ目をつけて、
- ②ロープで引っ張ってたおします。 ↓



木を使うことの意義の説明を聞いたあと、作品見本をもとにひとりひとり自分の作品をイメージし、それぞれ工夫して懸命に製作に取り組んでくれました。



# 丹波の森を未来につなぐフォーラム

昨年11月30日、「丹波の森を未来につなぐフォーラム」が、丹波市立青垣町総合運動公園（グリーンベル青垣）で開かれました。一昨年5月5日篠山市で開かれた「30年後の森を描こう」の後を受け、次世代に美しい里山をつないでいくための様々な取り組みを共有しようとするフォーラムです。丹波県民局、丹波篠山、丹波両市などでつくる「丹波の里山づくり促進事業実行委員会」主催のこのフォーラムを、今回も「バイオマス丹波篠山」が企画・運営にあたらせていただきました。

会場は、四方を囲む山を借景としつつ、紅葉した木々を配置し、落ち葉を敷き詰めた床に設置された



丸太イスを座席とする、秋の森のイメージ。

基調講演は森と踊る株式会社代表の三木一弥氏による「森づくりに参加してみよう!」。森にかかわる活動が、心踊るものであることが大事だと強く訴えるものでした。



10モデル活動団体の活動報告に続いて、「大阪万博で里山をPRするパビリオンをつくる」というテーマで、参加者全員で寸劇をしながら30秒のCM作成、撮影。里山にかかわる活動への楽しい発想や参加者同士のつながりが生まれる場となりました。

## 丹波の森・里山見学バスツアー

里山づくりと木材活用の現場を巡る

昨年12月14日、丹波地域の人工林・二次林を視察する他、原木市場や木の駅、製材所、加工所なども見学し、川上から川下までの生産・流通の過程を学べるツアーを実施しました。これも丹波の里山づくり促進事業実行委員会主催でバイオマス丹波篠山が企画・運営したイベントです。

まず丹波市まで足を延ばし丹波の森公苑、間伐が遅れる人工林の現状を学びました。次に同じく丹波市の丹波林産振興センターで原木市場で競りの現場を見学。木材価格の低さに衝撃。丹波篠山市に入って最初は丹波篠山木の駅。



一般市民が伐採、搬出できる仕組み、木材利用の説明を聞き、昼食はシカ肉のBBQと猪鍋で里山の恵みを味わいました。午後は西紀運動公園山林部分。山林整備を行いながら森づくりや森林資源、空間の利用について学ぶ場を企画する森



の学び舎の活動地を見学。最後に monoile café では木製のおもちゃや家具、雑貨をつくるお二人から、製品を供給する側の現状や市場ニーズについてのお話を聞きました。

\*そのほか昨年9月21日から今年2月29日まで6回にわたって実施した「里山育成研修会」も丹波の里山づくり促進事業実行委員会主催でバイオマス丹波篠山が企画・運営させていただきました。

# 里山スクール全4回開講

昨年11月8日から今年1月18日まで4回にわたって、丹波篠山市森づくり課主催、兵庫県立丹波並木道中央公園共催で、バイオマス丹波篠山の運営のもと行われました。



第1回目は、丹波篠山市の山林現状と木の駅プロジェクトについての2時間の講義。11/16と11/17はチェーンソー資格取得講習会で、それぞれ6時間ずつの座学と実践講習。最終日は、簡易ロープウィンチを使用しての林内作業と軽トラックでの搬出実践が行われました。



## 丹波篠山木の駅搬出体験会

2/29、3/14 垣屋で開催

丹波篠山木の駅実行委員会主催

第1回目は軽架線と林内運搬車のウィンチを使用して、伐採木の取り集め・搬出作業を体験。

第2回目はロープウィンチと滑車3個を活用して、軽トラックに重い丸太もひとりで軽く積み込む作業を体験していただきました。



## 真冬の市民フェスタに参加

1月25(土)26(日)と今年は2日間に渡って開催された真冬の市民フェスタ(「市民センターまつり」)に今年も参加。今年はクデジュー製作ワクワクワークショップのみの参加とし、内容を拡充させました。

ひとつはクデジューで自由に遊べるコーナーを設置。子供さんに無料で自由に遊んでもらえるコーナーとしました。大変な好評でコーナーには納まりきれない多人数になってしまうこともしました。

販売コーナーでは、選んでいただける飾り棚キットの数を倍以上に増やしました。



おかげで多くの方に足を止めて選んでいただけ、昨年をはるかに上回る方々にクデジューキットをお持ち帰りいただくことができました。ありがとうございました！

200cm×20本セットは10,000円  
クデジュー (1本500円)

お問い合わせは NPO 法人バイオマス丹波篠山  
☎079-593-1150 FAX 079-593-1377

  
NPO 法人  
バイオマス丹波篠山